

たつのまち

No.103

議会だより



思いをとどける
未来をつくる！



Center of Japan

日本のど真ん中
信州辰野町



秋の日差し・小横川(いいまちたつの知らせ隊)

9月定例会 令和7年度決算認定 「議員の学校」受講生14名卒業

②

16

一般質問(町政の重要課題) ⑥

町長への要望・委員会レポート ⑫

議会だよりモニターアンケート ⑮



辰野町議会
ホームページ



辰野町議会
Facebook



辰野町議会
YouTube

第4回臨時会 7月6日

- 令和8年度辰野町一般会計補正予算(第2号)
- 復旧事業伝兵衛井地区工事請負契約の変更について
- 財産の取得について(消防団高視認性活動服414着)
- 財産の取得について(可搬消防ポンプ4台)

補正額 5,405万円 増額
契約金額 1億2,029万6千円
取得金額 1,092万9,600円
取得金額 734万8,000円

第5回定例会 9月1日～9月18日

令和7年度決算・令和8年度補正予算・条例改正等33議案 請願陳情1件、議員提出議案3件、報告事項2件

※ 内の数字は議案番号 (総務産業、福祉教育、決算特別委員会に付託)

令和7年度 決算概要

(千円単位は四捨五入)

区 分	歳入総額	歳出総額	形式収支
一般会計	106億3,877万円	101億 726万円	5億3,151万円
特別会計	78億2,882万円	78億 435万円	2,447万円
合 計	184億6,759万円	179億1,161万円	5億5,598万円

※特別会計のうち上水道事業会計、下水道事業会計、病院事業会計は、収益的収支額(税抜き)を集計。

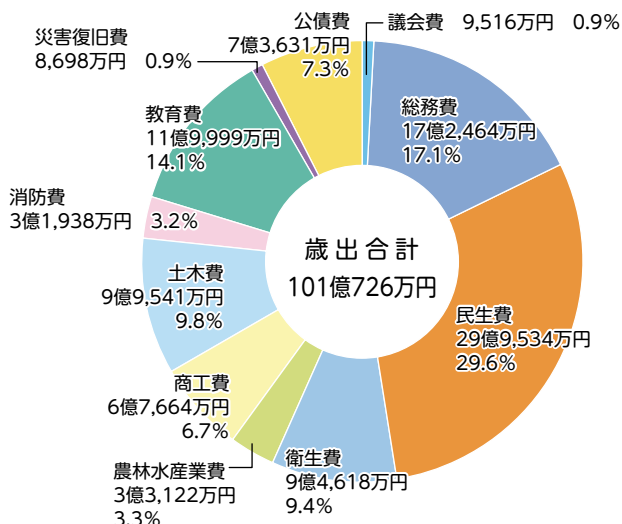
令和7年度 一般会計決算 (決算特別委員会 9月9日・10日、現地審査 9月14日)

1 一般会計決算 予算現額109億6,696万円(執行率92.2%)

※千円単位は四捨五入

一般会計歳出目的別内訳

(千円単位四捨五入のため、合計は一致しません)



総務費 予算現額20億794万円(執行率85.9%)

- 問 ガバメントクラウド*1移行の運用コストと稼働実態は。
- 答 標準化対象外システムが残る一方、クラウド・回線料が加わり運用コストは増加見込み。また、稼働後の不具合に対し保守体制強化を強く求めている。
- 問 コンビニ交付手数料50円化の評価は。
- 答 利用件数が7,093件へ急増。窓口の混雑緩和と住民の利便性向上、カード普及に向けた先行投資と捉えている。



民生費 予算現額31億253万円(執行率96.5%)

児童手当の拡充、子育て応援手当の給付(2,219名に各2万円)、学童クラブ運営。障害者自立支援給付費の増加、介護保険特別会計繰出金の増加等。

- 問 町社会福祉協議会の経営改善と町の支援体制は。
- 答 事務部門の基金が逼迫しており負担金減額は困難。職員2名を派遣し、組織強化と経営改善に向けて密接に伴走型で支援*2している。
- 問 未満児急増に伴う保育現場の負担増への認識は。
- 答 手厚い人員配置を要する未満児が約4割を占める。特別な支援が必要な児童も含め、保育士の負担軽減と人材確保が極めて重要な課題である。



衛生費 予算現額9億8,289万円(執行率96.3%)

- 産後ケア事業(宿泊・日帰り・訪問)の執行、不妊・不育症治療費助成の増額、生ごみ処理機設置補助等。
- 問 辰野病院繰出金4億5,000万円の積算根拠は。
- 答 経営強化プランの上限内で、企業債元金償還*3と医療機器購入補助(2分の1)を出資金とし、運営補助金も基準に基づき厳格に算定・配分している。
- 問 最大5,000万円助成の医師開業支援事業の実績と今後の姿勢は。
- 答 現時点で実績はゼロだが、地域医療の堅持は町の存続に関わる最重要課題であり、今後も粘り強く誘致活動を継続する。

*1 ガバメントクラウドとは、デジタル庁が整備し、政府や各自自治体利用する共通の環境

*2 伴走型支援とは、深刻化する「社会的孤立」に対応するため「つながり続けること」を目的とする支援

7月臨時会・9月定例会

全議案 **可決・認定**
・承認・同意・適任

農林水産業費 予算現額3億3,880万円(執行率97.8%)

問 有害鳥獣・クマ対策隊員の事故補償体制は。

答 上伊那地域で協議中。町長命令出動など公務性の高い活動は、町の責任による補償体制や日当基準を統一・整備する方向で検討している。

問 老朽化する「かやぶきの館」の将来方針は。

答 補助金の処分制限期間が満了する令和11年度を見据え、民間売却、解体、公設民営などあらゆる選択肢を検討する必要がある。



■林道西部線路肩修復工事 590万7千円

商工費 予算現額6億834万円(執行率99.1%)

問 商工会の会員支援に対する改善要望の把握と、町との懇談の実施状況は。

答 定例の懇談会等に行っていないが必要性は認識しており、今後実施したい。

土木費 予算現額11億192万円(執行率90.3%)

町道補修・改修(84件)、橋梁定期点検(77橋)等。

問 橋梁定期点検で早期修繕となった箇所への対応は。

答 計画的に修繕を進めているが、構造物の老朽化スピードに対し、財政面での予算確保が追いつかない側面がある。

問 老朽化する町営住宅の解体方針と今後の跡地活用は。

答 現入居者が退去後に順次解体する方針。入居ニーズの変化を踏まえ、次期計画改定時には民間活力導入や跡地活用を含め総合的に検討する。



■旧長橋補修工事 3,351万円7千円

消防費 予算現額3億2,272万円(執行率99.0%)

第4分団消防ポンプ車の更新、小野区藤沢耕地の耐震性貯水槽の新設、指定避難所へのスポットエアコンと自動ラップ式トイレ等の配備。

問 避難所に配備されたスポットエアコンの電気容量不足への対策は。

答 一部で同時使用時の容量不足が懸念されるため、町内全指定避難所の受電容量を調査し、有事の際に確実に稼働できるよう設備の改善・改修を図る。

教育費 予算現額14億1,663万円(執行率84.7%)

小学校5・6年生と中学校全生徒の端末更新、普通教室Wi-Fi改善、生涯学習・地域文化・スポーツ振興等。

問 学校給食炊飯委託料を公費負担化した趣旨は。

答 自校炊飯と委託炊飯の保護者負担の公平性を確保し、物価高騰下における子育て世帯の経済的負担を直接軽減するため、公費負担とした。

問 デジタル教科書導入と国の無償化の動向は。

答 紙とデジタルの併用含め、**無償給与**^{*4}の対象範囲に関する国の制度設計が未確定のため、今後の動向を注視していく。

問 部活動地域移行の実証事業で参加費を徴収した趣旨は。

答 持続可能な運営体制を検証するため、保護者負担の適正な水準を見極めるモデルケースとした。



■町民会館ホール舞台照明設備改修工事 1億1,440万円



■町民会館ホール照明LED化・天井改修工事 6,446万円

災害復旧費 予算現額1億4,296万円(執行率60.8%)

激甚災害の発生はなかったものの、インフラ強靱化を推進。

公債費 予算現額7億4,046万円(執行率99.4%)

臨財債(臨時財政対策債)ゼロ達成等により地方債残高を着実に圧縮し、将来負担を軽減。

議会費 予算現額9,706万円(執行率98.0%)

議員用タブレット導入。ペーパーレス会議の本格運用を開始、情報共有の迅速化・議会運営の効率化。

*3 企業債元金償還とは、施設建設などのために借り入れた資金の元金を計画的に返済すること

*4 無償給与とは、義務教育で使用するすべての教科書を無償で支給する制度

令和7年度 特別会計・事業会計決算等 (両常任委員会 9月11日・14日)

*5 収益的収入・支出とは、地方公営企業の1年間の通常の経営活動に伴って発生するすべての収支

2 上水道事業会計(予算7億5,102万6千円)

物価高騰を支援するため、令和8年2月・3月請求分の水道基本料金減免を実施。

- ・収益的収入*5 4億1,699万4千円
- ・収益的支出*5 4億2,129万9千円
- ・収支の差額 430万5千円の赤字決算

問 管路(水道管)の耐震適合率は。

答 29.3%で県内平均24.9%より上回っているが、高い水準ではないと認識している。

3 下水道事業会計(予算16億382万6千円)

下田中央道下ポンプ場他7か所のマンホールポンプの更新及び奉請太神宮前ポンプ場他10か所の監視計の更新、辰野中継ポンプ場No.3ポンプの更新。

- ・収益的収入 8億7,068万5千円
- ・収益的支出 7億7,825万1千円
- ・収支の差額 9,243万4千円の黒字決算

問 現在の収支状況から見て、今後の料金改定は。

答 人口減少に伴う使用料収入の減少と施設の老朽化に伴う維持管理費の増加が見込まれ、令和9年度に経営戦略見直し、令和11年度に改定の可能性。

4 国民健康保険特別会計(予算18億714万8千円)

被保険者数は年間平均3,151人、加入率は23.6%

- ・歳入総額 15億9,838万1千円
- ・歳出総額 15億9,379万7千円
- ・差引金額 458万5千円を翌年度に繰り越し

5 国民健康保険診療所特別会計(予算428万7千円)

令和6年度に第一診療所と川島診療所閉鎖。

- ・歳入総額 562万3千円
- ・歳出総額 27万9千円
- ・差引金額 534万4千円の内、繰越明許費繰越額533万5千円(医療機器等の処分委託料)、実質収支額9千円を翌年度へ繰り越し。

6 後期高齢者医療特別会計(予算3億8,553万4千円)

被保険者数は4,354人で前年度に比べて85人増。

・歳入総額 3億9,895万6千円

・歳出総額 3億9,712万5千円

・差引金額 183万1千円を翌年度に繰り越し

7 町立辰野病院事業会計(予算25億4,271万9千円)

経営改善に向け、令和7年7月より地域包括ケア病床*6を37床から70床へ増床・転換し、入院診療単価向上を図ったが、厳しい経営状況が継続。

- ・収益的収入 22億8,366万9千円
- ・収益的支出 23億8,173万6千円
- ・収支の差額 9,806万7千円の赤字決算

問 現在の救急患者受入と診療体制は。

答 令和7年度の救急受け入れ実績は、目標値を上回る566件であり、周辺病院との連携や当直体制の見直しにより受け入れ体制の維持に努めている。

8 地域情報告知システム特別会計(予算1,252万円)

令和8年3月31日をもってサービス提供を終了。

- ・歳入総額 1,415万7千円
- ・歳出総額 1,271万8千円
- ・差引金額 143万9千円を翌年度に繰り越し

9 介護保険特別会計(予算22億1,475万1千円)

新たに24時間365日対応の緊急通報サービス利用事業を開始。町内26箇所介護予防サロンを実施。

- ・歳入総額 22億4,035万4千円
- ・歳出総額 22億1,914万4千円
- ・差引金額 2,121万円を翌年度に繰り越し

問 緊急通報サービス利用事業の対象要件は。

答 65歳以上のひとり暮らしや高齢者のみで緊急時の対応が困難な世帯が対象。

10 上水道事業会計未処分利益剰余金*7の処分

令和7年度未処分利益剰余金113万5千円を資本金に組み入れる。

11 下水道事業会計未処分利益剰余金の処分

令和7年度未処分利益剰余金1億183万2,858円のうち、9,200万円を減債積立金に積み立てる。

*6 地域包括ケア病床とは、患者に対して在宅復帰に向けた支援やリハビリを行う病床

令和8年度 補正予算

14 専決処分の承認を求めることについて

令和8年度辰野町一般会計補正予算(第3号)

15 令和8年度辰野町一般会計補正予算(第4号)

16 令和8年度辰野町上水道事業会計補正予算(第2号)

17 令和8年度辰野町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

18 令和8年度辰野町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第1号)

19 令和8年度町立辰野病院事業会計補正予算(第1号)

20 令和8年度辰野町介護保険特別会計補正予算(第1号)

大雨で損壊した用水路の復旧工事費用等

・補正額 1,500万円 増額

地方創生臨時交付金事業、職員災害派遣等

・補正額 4,921万円7千円 増額

物価高騰対策水道基本料金無償化事業等

・補正額 収支予算総額に変更なし

・補正額 448万4千円 増額

・補正額 266万5千円 増額

照明LED化工事の事業手法見直し等

・補正額 3,500万円 増額

国庫支出金等過年度分返還金等

・補正額 2,950万2千円 増額

辰野町公の施設の指定管理者の指定

施設名	指定管理者	指定期間
24 辰野町ボランティアセンター	辰野町社会福祉協議会	5年間
25 辰野町老人福祉センター	辰野町社会福祉協議会	5年間
26 辰野町生活支援センター	株式会社みらい福祉会	5年間
27 辰野町地域活動支援センター	長野県社会福祉事業団	5年間
28 たつの未来館(アラバ)	シンコースポーツ株式会社	3年間
29 辰野町世代間交流施設	世界昆虫館	2年間

条例審査・その他議案

※氏名の敬称を省略しています

12 辰野町認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	地方自治法施行規則の一部改正に伴い引用している規定の条文を改める
13 辰野町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	上位政令の改正に伴う、葬祭補償の改定
21 和解について(耐震改修補助金)	県が交付率の解釈誤認、県が全額補填
22 和解について(生活支援体制整備事業業務委託)	消費税の取り扱い誤認、過払い分受領
23 和解について(認知症初期集中支援チーム業務委託)	消費税の取り扱い誤認、過払い分受領
30 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	増田良隆、根橋恭子、赤羽隆、西原功(任期3年間)
31 辰野町固定資産評価審査委員会委員の選任について	石川あけみ(任期3年間)
32 辰野町教育委員会教育長の任命について	林武司(任期3年間)
33 辰野町教育委員会委員の任命について	飯澤隆(任期3年間)

陳情審査

※氏名の敬称を省略しています

陳情
第8号

国会に「非核三原則の堅持を求める意見書」の提出を求める陳情

〔提出者〕 原水爆禁止上伊那地区協議会 会長 野口俊邦、上伊那地区労働組合会議 議長 松澤史浩

委員会／採 択 賛成5、反対1で採択すべきものと決し、意見書(案)を提出することに決しました。

□総務産業常任委員会の主な意見

- ・対立を生まないことが大事で、日本はこれからも非核三原則を厳守する考えで外交を進めてほしい。
- ・核抑止力は存在しており、日本を取り巻く近隣国の核武装について対抗できるかが問題である。など

本会議／採 択 賛成12 樋口、林、牛丸、吉澤、古村、栗林、高木、小澤、本田、向山、小林、津谷

議員提出議案の審議

※氏名の敬称を省略しています

発議
第1号

非核三原則^{*8}の堅持を求める意見書の提出について

〔提出先〕 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣

本会議／採 択 賛成11 林、牛丸、吉澤、古村、栗林、高木、小澤、本田、向山、小林、津谷
反対 1 樋口

発議
第2号

上下水道事業の老朽化対策・耐震化と経営基盤強化に向けた支援を求める意見書の提出について

〔提出先〕 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣

本会議／採 択 賛成12 樋口、林、牛丸、吉澤、古村、栗林、高木、小澤、本田、向山、小林、津谷

発議
第3号

簡易水道基盤強化のための予算確保を求める意見書の提出について

〔提出先〕 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、環境大臣

本会議／採 択 賛成12 樋口、林、牛丸、吉澤、古村、栗林、高木、小澤、本田、向山、小林、津谷

報告事項

令和7年度財政指標等の報告、辰野町第6次総合計画前期基本計画の実施状況の概要について



たかぎ ちか
高木 智香



高齢者等へのタクシー・バス利用券の助成範囲拡大を

町長 自家用車を所持している免許返納者への助成を検討する

質問 町ホームページ上に、自主返納方法や受けられる支援等をまとめたページを作っては。

答弁 長野県警察のリンクを貼り、返納者への特典などを掲載した「免許の自主返納を考えてみませんか」のページを作った。



夏休みのプール開放再開を

質問 開放再開の実施に向けて、①プール使用時の熱中症対策としてプールに遮熱シートを設置し、水温の上昇を防ぐ。②登下校時の熱中症対策として午前中の早い時間に実施する。③見守り体制として保護者・地域の方・帰省中の学生などを雇用する。ことで南小以外の小学校でも実施できないか。

答弁 ①遮熱シートは研究していく。②登下校については、西小や東小の場合、早い時間に実施しても、遠方から歩いてくる児童もいるため、11時半までに下校を完了するのは難しい。③監視員については、保護者の協力を得られなかった学校もあるため、恐らく確保は難しい。

質問 今年7月民間のスポーツ団体が水泳教室を実施した

が、来年度以降も協力を依頼して実施できないか。

答弁 今年度実施した団体にはプール開放ができることと伝えることはできる。今後もプールを利用したい民間団体から相談があれば対応を協議したい。

小中学生が被爆体験講話の聴講機会を設けては

質問 小中学生が被爆体験者または被爆体験伝承者から話を聴く機会を設ける考えは。

答弁 実現できれば素晴らしい企画。4月の校長会で話しているが、9月の校長会でも再度提案について話をする。

高校生向けインターンシップ(就業体験)をする考えは

質問 高校生が様々な仕事と出会い、自分の将来を考えるきっかけになるように、高校生を受け入れ可能な町内事業者を募り、高校生が就業体験を行うことで様々な業種を知る機会を設ける考えは。

答弁 現在、辰野高校2年生を対象にした企業説明会を行っており、約10社の事業所が参加している。しかし、説明会だけでは、仕事内容やイメージがわからない等の声があったため、理解を深めてもらうための会社見学会を今年計画している。まずは辰野高校生向けに実施し、今後は町内外の高校生向けにも展開できればと考える。

【◎注目ポイント】 運転できない高齢者にはタクシー利用券が必要です。助成範囲の拡大を求めました。



こばやし てるこ
小林テル子



宿泊税(市町村交付金)で滞在型宿泊プランの作成を

町長 交付金の使途を確認しプラン作りは検討したい

質問 宿泊税導入で辰野町への交付金はどれくらいか。

答弁 一般交付金231万7千円町単独事業に、重点交付金90万2千円広域的事業に交付予定見込み。

質問 県の観光地利用者統計で辰野町の宿泊のピークがほたる祭りの6月ではなく8月・5月・10月であることが、町ではどう対応するか。

答弁 ほたる祭りの宿泊状況について携帯電話等のデータ分析等情報収集に努める。宿泊税交付金を契機とした観光施策は時間をかけて、検討。宿泊施設管理者への聞き取りを実施し、観光の検討に着手する。

質問 聞き取り10件だが、ほたる祭り期間中宿泊飲食に繋がっていないと事業者の声があるが、6月を起点に体験滞在型のプランを提案したいが。

答弁 滞在型宿泊プランが町への愛着を深める効果は期待できるが交付税補助対象になるか調査が必要。町には合宿等補助金、農業体験への補助金等ある。課題を整理して観光宿泊の方向性を検討する。

ほたる童謡公園のトイレの改修の検討は

質問 童謡公園のトイレは老朽化が進み公共トイレとして厳しい状況と把握しているが、改修の考えは。

答弁 駐車場側トイレは30年経過し、老朽化に伴う故障、衛生面の問題があることは深刻に受け止めている。大規模な改修も視野に入れて検討を進めている。多額の費用が掛かるため、県・国の補助制度活用で進める。具体的予算については控えさせていただきたい。

要望 童謡公園のトイレは「辰野町の顔」。全国から見えるお客様に「辰野町の顔」を気持ちよく使えるよう早期の改修を要望する。



老朽化した童謡公園トイレ

令和8年度産米有機米の学校給食への提供は

答弁 辰野の環境負荷軽減米は順調に生育している。価格の発表はこれからだが12月から2月提供で調整する。

その他 PTAからの通学路改善要望について

【◎注目ポイント】 長野県宿泊税徴収の交付金を契機に町の観光宿泊を進める伸びしろは十分あります。

「公共施設4分の1削減目標」は変わらないのか

よしざわ みつ お
吉澤 光雄



町長 削減目標達成に取組み、より実効性ある施設計画にする

公共施設管理改善は

質問 「町公共施設等管理計画」では、施設の約7割が築30年以上で、耐震化が必要な施設・設備も多く、今の予算では全施設の更新ができず、大幅削減が必要としている。教育・福祉・暮らしを支える施設は無くせない。国に財源保障を求めると同時に、住民福祉向上と収入を増やすため、町民にもっと利用してもらう取り組みが必要では。

答弁 重要課題として取り組んでいる。教育、体育施設の利用は、ここ3年間で2割程度伸びている。

質問 例えば、アラパの町外者利用料を上げるなど運営方法の見直しや用途変更、売却など、抜本的な見直しは。

答弁 早期に事前検討に着手するよう取り組む。

要望 一部の指定管理料が大幅に上がっている。応募1社では業者の言い値になる。応募業者を増やす取り組みを。

城前桜並木の保存活用は

質問 全国でも稀な国際友好の証であり、景観・教育的にも貴重だが、樹齢60年を超え衰えている。町は7年前の議会で計画的に植え替えると答弁したが進んでない。維持・更新のため、専門家の診断と指導が必要では。

答弁 維持の努力はしている。専門家の力を借りたい。

要望 町が呼び掛けて、城前桜並木保存連絡会の結成を。



樹勢の衰えが進む城前桜並木

事務誤りの再発防止策は

質問 町民に被害を与える事務誤りについて、上司や理事者への報告が遅く、決められた手順がないのではと感じた。実態と改善策は。

答弁 関係者にお詫びする。マニュアル文書はない。業務改善につながるよう、マニュアル作成等も目指したい。

子育てイベント情報は

質問 掲載希望の民間情報を含めて町がまとめ、周知を。

答弁 一定の情報発信はしている。営利利用など検討課題があるが、要望もあるので検討したい。

【注目ポイント】 インフラ含めた全公共施設の更新費用は、年平均7.6億円足りない見込み。どう対応するか。

アンダーパス、冠水に備えての対応は

むかいやま ひかる
向山 光



町長 通行止めを行う明確な基準を設けることが重要である

災害級と言われる猛暑の中での災害から何を学ぶか

答弁 猛暑時の避難所生活では、全ての避難者に特別な配慮が必要であることが明らかになった。施設整備や熱中症対策に効果的な備蓄、非常食の確保に努めたい。



町道16号線のアンダーパス

質問 災害時における辰野病院の対応、機能分担は。

答弁 大規模災害時には、県が広域的な医療調整を行う。辰野病院の透析医療は地域における重要な役割であり、災害時に備えた資器材の備蓄を確実にやっている。

職員の兼業と予備自衛官制度への対応は

質問 職員の兼業に関する町の考えは。

答弁 公務員としての職務を大切にし、職員の知識や経験、能力を地域で活かすことができる兼業については、適切に判断したい。恣意的にならないようにするための一定の基準について、各自治体の情報収集に努めたい。

質問 兼業として予備自衛官に応募することへの考えは。

答弁 職員採用において、予備自衛官への応募を前提と

することや応募要件として求めることは現時点で考えていない。採用後の処遇に関して、予備自衛官制度について十分な情報が届いていないので、明言する段階でない。

こども計画の推進、困難な問題を抱える女性支援、重層的支援との連携は

答弁 役場全体が課の垣根を越えて連携を図ることが不可欠。全職員を対象とした研修会を実施し、連携の徹底を図った。相談者の尊厳と権利を守るために、個人情報の管理には細心の注意を払うこと、ファーストコンタクトでの対応が極めて重要であることなどを徹底している。必要に応じて、県や外部のネットワークとも連携・支援を行っている。ホームページを活用した情報発信に努める。

質問 ほたる童謡公園「ジャブジャブオアシス」の活用は。

答弁 水量が少なく、コケや藻が発生し、水遊びが困難な状況になっている。流れる水量を増やししながら定期的に清掃し、発生を抑制を試験的にやっていきたい。

松くい虫対策と、緩衝帯施業や樹種転換の取り組みは

答弁 枯れた赤松を伐採する対症療法に加え、面的な予防的な森林整備は不可欠。樹種転換事業等への補助金を交付しており、樹種転換や山林整備を後押ししていく。

【注目ポイント】 こどもの育ちをめぐる様々な課題は輻輳しており、まち全体での連携した取り組みが重要。



おざわ むつみ
小澤 睦美



「道の駅」「川島天然温泉」「スマートIC」構想検討状況は

町長 令和8年度中には、議論の進捗状況、方向性を示したい。

小中学校あり方検討委員会提言に対する取り組みは

質問 「3つの小学校(辰野西・辰野東・辰野南)を何らかの形で再編する方向で」の検討状況は。

答弁 現在までに、学校の先生、小中学生からの意見を聞いてきた。今後保護者の意見を聞いた後、3種類の意見を集約して、来年あたり総合教育会議を開催し、その後の方向を町長と共有して、取り組んで行くことになる。

質問 小中一貫教育(小中一貫型学校・義務教育学校)の推進、要望に対する教育委員会での検討状況は。

答弁 小中一貫型学校・義務教育学校それぞれメリット・デメリットがある。教育委員会として検討している。

特色化による県立辰野高校存続を

質問 包括連携協定締結後の成果は。

答弁 国指定天然記念物「小野のシダレグリ自生地」整備事業へ参加、辰野駅開業120周年記念フェスタへ参加など。今



「小野のシダレグリ自生地」整備事業参加

後は町のPR動画の作成やフェスティバル参加などが行なわれる。生徒目線のアイデアが町にも寄せられることになるので、これからもこのような連携の取り組みを更に生かして行きたい。

質問 生徒の台湾訪問に対し何らかの支援を。

答弁 これまでも環境整備負担金として、台湾交流に対する学習に対して支援してきている。台湾訪問に対する直接的な費用負担は、様々な観点から考えていない。

高齢者に対する移動手段の確保を

質問 町が、自ら道路運送法上の登録を受けて行なう運送サービス「公共ライドシェア」導入の考えは。

答弁 運行における安全性の確保や、運行責任の所在、地域の事業者への影響など精査する課題がある。先行して取り組む自治体の動向も注視し、慎重に見極めたい。

辰野町国際交流委員会の役割・取り組みは

質問 国際交流及び国際協力の企画、連絡調整及び推進に関すること、委員会として取り組むべきでは。

答弁 日本語教室、台湾都市との民間交流。行政の取り組みでは災害時外国人支援サポーター養成講座等を実施している。今後幅広い住民の参加を促して行きたい。

【👁️注目ポイント】 町長3期目就任後1年弱の公約に対する進捗状況を考える。



つや あきら
津谷 彰



災害時、要支援者へ情報伝達・安否確認における課題は

町長 行政だけでは限界、地域住民・自主防災組織等の共助が重要

災害時のラストワンマイル支援と人的受援計画の状況は

質問 在宅避難者や孤立地域に対し、物資・医療・福祉支援を最後の一人まで届ける体制は。

答弁 自主防災組織等と連携して初期情報を収集し、協定に基づく道路復旧や代替輸送を検討する。在宅避難者・要配慮者は民生委員、関係機関と個別訪問・安否確認を行い、生活支援ニーズを把握する。

質問 人的受援計画の策定状況、職員の安否確認、業務別必要人員及び応援職員の配置体制は。

答弁 令和3年3月に辰野町受援計画を策定した。職員安否は「オクレンジャー」で本人・家族状況、住宅被害、出勤可否を確認。災害規模に応じ不足部署を補い、受入場所は庁内3か所・庁外5か所で、業務も計画に記載している。鋸南町、三遠南信地域市町村、池田町、松川村、信濃町等との協定で職員・物資の応援体制を整備した。配置は総務課が判断し、配置先責任者が業務説明・指揮を行う。

質問 夜間・休日、庁舎使用不能、管理職不在、高速道路寸断等を想定した実践的な受援計画の検証は。

答弁 夜間、庁舎使用不能、課長級職員が参集できない場合を想定した訓練は、現時点で実施できていない。



防災リュックや防災ボトルなど、日頃の備えを

親亡き後の障がい者・家族への相談支援体制と課題は

答弁 親亡き後の相談は本人・家族・事業所相談員等から年数件あり、65歳未満は障害福祉係、65歳以上は高齢者相談支援センターが対応し、状況・希望を聞き制度や関係機関につないでいる。障害福祉サービス利用者は支給判定会議で家族関係・家庭環境を確認し、将来の生活困難が見込まれる場合は計画相談員を通じ早期利用を提案する。一方、家族の現状維持希望やプライバシー懸念により、早期相談につながりにくい課題がある。

校外活動や部活動遠征における安全マニュアルの作成は

答弁 学校の危機管理マニュアルは整備済みで、熱中症、熊、雷対応を追加中。完了後、教育委員会で共通の最低基準を検討する。

【👁️注目ポイント】 平時でも災害時でも、町民のQOLが低減することのない支援体制づくりは重要ですね！

私立授業料無償化が進む中、辰野高校の存続支援策は

こむら みきお
古村 幹夫



町長 包括連携協定のもと、選ばれる学校づくりへ強力に協力する

小中学校職員の労働環境整備は

質問 給食調理員や屋外作業員などの熱中症対策は。

答弁 給食室への空調増設を行なっているが構造上効果が得にくい。校務技師へは送風機能付き作業服の着用を推進するなどの対応をしている。

質問 職員の休憩場所、時間などは確保されているか。

答弁 様々な職種があり一概には言えないが、休憩の取得状況は直接確認し改善を図る。

質問 ハラスメント等の相談体制の整備状況は。

答弁 教職員も利用できる複数の相談窓口を設け、新たな体制を築いていく。

6月大雨による小中学校への影響は

質問 雨漏りなどの被害状況と、復旧・点検の状況は。

答弁 辰野中は緊急修繕を完了した。複数箇所で雨漏りが発生している東小体育館などは根本的な修繕が必要であり、補助金を活用した改修を検討中である。



避難所となる学校施設の環境整備は

質問 体育館への空調設備導入計画は。

答弁 現在使用している児童・生徒のことを考え、また避難所として使用していくことを考えた時には、空調設置に向けて進めていく必要性を感じている。体育館への空調設置は小中学校集約の検討と併せて考える。

質問 空き教室などを要配慮者のための避難場所として使用するための整備の必要があるのでは。

答弁 学校では様々な用途のため空き教室はほとんどない状況であり、教室を避難所として利用することは難しい。福祉避難所は、町内福祉施設との協定により確保を進める。

辰野高校との連携と存続支援は

質問 私立高校授業料無償化等が進む中、辰野高校存続に向けた課題認識と、町としての連携・支援策は。

答弁 少子化や私立高校授業料無償化による存続への影響を危惧している。2月に町と同校で包括連携協定を締結した。地域課題の解決に連携して取り組み、同校が独自性を発揮し「選ばれる学校」となるよう強力に協力していく。

【注目ポイント】 国は全ての小中学校体育館への空調設備設置目標を、令和13年度中に前倒しの方針。

公共施設のネーミングライツの可能性は

ひぐち ひろみ
樋口 博美



町長 自主財源確保には有効。制度整備を進め企業に働きかける。

株式会社パソナグループとの包括連携協定は

質問 パソナの事業計画は。辰野町で何をしたいのか。

答弁 地方創生を事業戦略としている。中小自治体の地方再生ビジネスモデルを作る事が目的。淡路島のような具体的な計画はない。辰野町の課題をパソナグループのノウハウを活かして協働で研究していく。今までの人間関係の中で辰野町が選ばれた。今後具体的な検討を進めていく。

質問 荒神山公園の再開発、パソナ・ヒルの可能性はあるのか。

答弁 公共施設の根本的な役割を検討する時期。平成24年に策定した施設の基本構想を元に、今ある施設の魅力を繋げることで相乗的な効果を生み出すことを期待。パソナの意見を幅広く聞いている。実績とノウハウに期待。パソナ・ヒルの考えは否定しない。パソナは、施設全てをという考えはない。公共施設の整備は町が主体的に方向を示し、町の構想にサポート的に関わってもらう。



選挙公約、道の駅の進捗状況は

質問 目的地となる道の駅構想はあるのか。

答弁 プロジェクトチームは発足していないが、情報は集めている。令和8年度中には方向性を示す。

質問 道の駅、山の駅、街の駅、畑の駅でも良い。公約で示した以上、町長のビジョンはないのか。

答弁 考えは持っている。8年度中に方向性を示したい。

意見 選挙公約は町民にとの約束。町長自ら示すべき。

質問 町長にとっての公約とは何か。

答弁 公約とは何を作るかということではなく、町をどうよくするのか、町民との未来への約束と考える。8年間の様々な声を拾い上げるなかで、温泉掘削、スマートインター、道の駅は将来の町づくりに不可欠と考えた。

免許返納後の移動手段は

質問 現状以上の検討はないのか。

答弁 住民の要望を全てかなえているとは考えていない。多岐にわたる課題があるが、指摘されたことを受け止め、今できることを積み重ねていく。

要望 福祉移動手段を含めた移動手段の検討を地域含めた検討が必要。

【注目ポイント】 免許返納後の移動手段の確立は住み続けられる町づくりの基本。



はやし まさみ
林 政美



辰野町の農業振興方向は

町長 既存の慣行農業を維持・継続する

持続可能な農業経営の実現を図るために

質問 慣行農業から有機農業や環境保全型農業への転換なのか。また、ICT導入の具体策は。

答弁 慣行農業と並行し取り組む新たな選択肢・強みとして、有機農業を推進する。地域おこし協力隊の隊員4名が有機の種を採取している。将来的には、彼らを中心に地域全体の担い手確保や遊休農地の有効活用に繋げていく。ICTの導入は、小規模でも使える安価で簡易的な技術の情報提供を国や県の紹介等から農家と技術を繋ぐ支援を行う。



質問 町独自の農業生産価格高騰対策の考えは。

答弁 他産業との公平性の観点や効果的な支援の在り方を慎重に判断し、町独自の一般財源を安易に投入することは避け、国や県の新たな財政メニューを迅速かつ最大限に活用し、生産現場の負担軽減に努めていく。

地域おこし協力隊の取り組み状況と評価は

質問 協力隊員の移住・定住の状況は。

答弁 平成27年度から地域おこし協力隊制度を活用し、延べ38名が着任。退任した24名のうち15名が町内に定住している。

質問 町民の声をどのように把握しているか。活動の評価方法と取り組みテーマの決め方は。

答弁 住民や各種団体からの声に加え、協力隊員から直接聞くことで把握に努めている。任期は3年であるが、1年ごとに成果と今後の方針を確認し総合評価で更新している。募集にあたり各課からの要望や地域が抱える課題を集約し募集テーマを決定している。

町長公約の進捗状況は

質問 プロジェクトの立ち上げ状況と35歳以下職員との懇談状況は。

答弁 現時点でプロジェクトチームの立ち上げに至っていない。若手職員との懇談は未来の理想を語り合い、将来に向けた率直な意見交換が活発に行なわれた。

その他 森ビジョンの進捗状況と課題・対応策について

【👁️注目ポイント】 令和8年度中に方向性を示すとされた町長公約の行方。



うしまる よしや
牛丸 圭也



エアコン未設置の保育園遊戯室への設置については

町長 財源確保に努め計画的な設置に向け取り組んでいく

保育園遊戯室へのエアコン早期設置については

質問 猛暑や防災の観点から遊戯室へのエアコン早期設置が必要である。未設置3園への段階的な計画はあるとのことだが、設置完了見込み時期と冷房方式は。

答弁 中央保育園は工期を延長し9月中に完了予定。避難所機能も考慮し、ガスヒートポンプ方式を採用している。未設置の3園も中央保育園の運転状況等の検証を踏まえ計画的に進める。

包括連携協定の進捗と展望は

質問 株式会社パソナグループおよび辰野高校と締結した包括連携協定の進捗と展望は。

答弁 株式会社パソナグループとは農産物の販路拡大やイベント参加等を実施し、伴走者として地域活性化を図る。辰野高校とはシングルグリ整備や、CM制作等を共同展開しており、教育と地域創生につなげる。

町と介護施設との連携については

質問 町と福祉介護施設の意見交換の機会があったようだが、内容や今後の連携や施策への反映は。

答弁 7月28日に、町と福祉関係23事業所が参加する連携交流研修会を開催した。意見交換を通じ、連携強化や

相談窓口の周知の必要性、開催への高い満足度を得るなど成果を確認した。今後はアンケート分析に基づく意見交換を再度開催し、「支援者支援」の視点から現場の課題を把握し、継続的な対話を通じて実効性のある支援施策や介護保険事業計画への反映を図っていく。

オンライン地図検索サービスへの町道名表示は

質問 地図検索サービスに町道名が表示され始めたが、その経緯と今後の展開は。

答弁 町で公式な行政アカウントを取得して手作業で道道に申請・反映させた。今後も道路の新設や変更に合わせて最新情報を継続更新していく。



【👁️注目ポイント】 町と介護施設との連携についてと、保育園遊戯室のエアコン設置についてはまた質問します。

インフラ維持と新規投資、持続可能な未来への街づくりは

ほんだ こうよう
本田 光陽



町長 優先順位を見極め、特定財源を活用しながら推進する

多様な町民の声を町政に反映させる仕組みは

質問 行政と接点を持つ層が高齢男性等に偏りがちになる仕組みに問題がある。子育て世代や若者など声が届きにくい層の意見を拾うため、行政が普段人が集まる場所へ出向く「出向型」の意見交換や、子育て応援フェスなど既存イベントでの対話コーナー設置を提案するが考えは。

答弁 若者や女性が集まる場所へ出向くことは有効だが、議論の目的や論点を明確にする必要がある。辰野高校との連携などテーマを持った対話を模索したい。また、イベントでの対話は参加者が楽しむ時間を邪魔しない配慮を前提に、最適な形を検討したい。

立地適正化計画とインフラ更新・大型投資のバランスは

質問 人口減少を見据え都市機能の集約や居住誘導をどう進めるか。また、道の駅等の新規大型投資の検討にあたり、道路や水道など既存インフラの維持・更新費とのバランスをどう図るか。

答弁 立地適正化計画は令和8～10年度の3年間で策定を進め、緩やかな誘導や災害リスクを踏まえた防災指針を含め段階的に検討していく。

答弁 生活基盤である上下水道や道路等の既存インフラ

更新費は削減せず計画的に進める。大型投資は補助金や有利な起債を活用して一般財源の負担を軽減し、優先順位を見極めて持続可能な事業推進に努める。

現役世代や女性に選ばれる街づくりは

質問 辰野町では20代女性の転出が特に目立つ。近隣自治体と比較した際の強みや弱みをどのように分析し、今後の定住・移住促進策へ活かしていくか。

答弁 豊かな自然環境や交通利便性、挑戦を応援する風土が強み。課題は魅力の戦略的発信と定住への受け皿づくりにある。今後は住宅施策や就労・子育て支援に重点的に注力し、SNS等を活用した魅力発信を強化して選ばれる町を目指す。



【注目ポイント】 人口減少に伴う財政運営、町長のリーダーシップを。

独自の教育施策、学びの多様化に向けた課題は

くりばやし としひこ
栗林 俊彦



町長 生き抜く力、五感を使った体験的な学習・学びの構築

少子化と施設の老朽化に対応した新たな学校づくりは

質問 基本方針と現時点で想定しているスケジュールは。

答弁 町民のみならず児童生徒の声も取り入れながら子どもたちと一緒に教育ビジョンを作り、令和10年代の比較的早い時期に集約するという姿勢は変わっていない。

質問 学習支援・体験活動に地域おこし協力隊や地域活性化企業人などの外部人材を配置・活用する考えは。

答弁 英語・スポーツの補習、放課後の学習支援に教員の免許を持った方たちがいれば大歓迎。またICT・生成AIに堪能な方がいて臨機応変に対応できるとありがたい。

質問 「業務の3分類」の主な見直し効果と狙い、教育の質を高め実効性のある働き方改革につなげていく計画は。

答弁 先生方の生きがい・働きがい確保し、辰野町の未来を担う子どもたちの豊かな学びと成長を図る。令和11年度末には19項目全て達成できるように努力する。

辰野町の将来像と中心市街地・駅周辺の活性化は

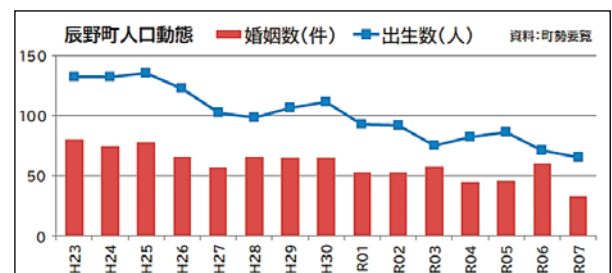
質問 空き家・空き地が増加する「まちなか」に街区公園を設置し住民の憩いの場・災害時の避難場所に活用しては。

答弁 辰野駅周辺は都市計画区域内であり、基準に適合する都市公園としての街区公園の設置は難しい。

少子化対策(子育て支援・未婚化の解消)の取り組みは

質問 子どもが生まれてからの支援と子どもを持つ前の若者への支援が必要。優先して取り組むべき課題は。

答弁 少子化対策は、どの取り組みも極めて重要であり、一概に優先順位をつけることは困難。住環境の整備、利便性の高い交通網、安心して働き続けられる雇用の場の確保など、人口減少の歯止めをかけるために第6次総合計画後期基本計画とこども計画を両輪で推進する。



質問 子ども・子育て応援市町村交付金や国の関連交付金を活用した事業、新たな少子化対策の企画・計画は。

答弁 おむつクーポン券支給・母子保健・出産準備金など各種事業。今年度、子育て機運醸成を図る講演会を計画。

【注目ポイント】 これからの時代にふさわしい学校、子どもたちに夢を与えられ学びができる学校をつくる。

町 長 へ の 要 望

【総務産業常任委員会】

持続可能な行政運営を行うため、中長期的な財政基盤の強化を図ることを強く要望いたします。

要望 自主財源の確保・拡充

ふるさと納税の強化を図り、企業誘致や既存企業への支援を進め、税収の確保と民間企業のノウハウを活用して、地域経済の活性化につながる取り組みを強化すること。



ふるさと納税返礼品の松茸

町長

自主財源の確保と財政基盤の強化に向け、企業誘致や既存企業の設備投資、人材確保を支援し、雇用創出と地域経済の活性化を図ります。ふるさと納税の着実な確保と、企業版ふるさと納税を通じた寄附額の拡大を図ります。また、企業のノウハウを活かした産業振興や地域ブランド確立に向け、包括連携協定の趣旨や目的を十分に精査します。

要望 将来を見据えた歳出構造の見直し

歳出構造を見直し、増加する義務的経費の将来見通しを把握するとともに、事務事業の必要性や費用対効果を検証し、財源を効果的に配分できる財政構造を構築すること。

町長

必要性や緊急性、費用対効果を十分に検証し、優先順位を明確にして計画的に取り組めます。住民ニーズや事業成果を的確に捉え、必要な事業へ財源を重点的かつ効果的に配分できるよう、見直しを進めます。

要望 公共施設・インフラ更新への計画的な備え

公共施設の大規模改修や統廃合、上下水道等の老朽化対策について、更新費用を把握し、財政計画と連動した計画的な整備・更新を進めること。

町長

利用状況や将来人口を踏まえ、施設の集約化・複合化・統廃合を含む適正配置を進めます。自主財源の確保や既存事業・経費の見直しと、施設・インフラの計画的な維持更新を一体的に進めます。

【福祉教育常任委員会】

要望

町内小中学校校舎の雨漏り、修繕や運搬可能な昇降機の導入など、バリアフリーを含む老朽化対策が急務です。学習・執務・休憩環境の改善及びICTの刷新や迅速な学童クラブの居場所確保、適切な予算措置と中長期的な教育ビジョンの早期提示を強く求めます。



町長

町内小中学校の雨漏りは補正予算などで迅速に修繕していますが、校舎等の老朽化対策やバリアフリー化などの大規模改修は、新たな学校の姿の方向性が定まるまで行わない方針です。階段昇降機は必要時にレンタルで対応し、環境改善や学童クラブのあり方は現場と相談しながら検討します。ICTは来年度のシステム検討後に機器を整備します。また、新たな教育ビジョンは、学校の方向性が定まった段階で、住民や児童生徒の声を取り入れ、策定・公表します。

要望

複雑化・多様化する家庭課題への支援に向け、子どもだけでなく家庭全体を包括する手厚いサポート体制が必要です。福祉・教育等が連携した重層的支援体制を強化し、子ども家庭センター等における専門人材の確保と相談伴走支援の質的向上、早期から困難を抱える家庭に寄り添う体制の拡充など、さらなる地域ケアの拡充を求めます。

町長

家庭環境の複雑化・多様化に対し、子ども家庭センターを中心に専門人材の確保や関係機関との連携を強化し、課題の早期発見と切れ目のない伴走型支援を行っていきます。経済的困窮やヤングケアラーなどの多岐にわたる課題には、縦割りではない「家庭全体をまるごと支える」包括的な支援が不可欠です。アウトリーチや民生児童委員・地域との連携により潜在ニーズを把握し、誰も孤立させず安心して暮らせる地域ケア体制の充実を図ってまいります。



委員会レポート(議会閉会中の活動報告)

総務産業常任委員会

辰野町商工会との意見交換会 8月21日

「人口減少時代における辰野町の地域経済の課題と各組織の役割」をテーマに、商工会が日頃の事業支援を通じて把握した地域経済の現状と課題を共有し、意見交換を行いました。商工会の役割や事業者支援、人材確保、事業承継、人口減少が地域経済に及ぼす影響などの説明がありました。事業承継、定住促進、若者への情報発信、女性の就労環境などの意見が出されました。行政、商工会、議会、観光協会などが、それぞれの役割を担いながら魅力あるまちづくりに関わる重要性を共有し、各団体との連携を深めることを確認しました。



「道の駅」視察研究報告会 9月29日

調査・研究してきた事例の中から、4自治体5施設、群馬県川場村「川場田園プラザ」、茨城県境町「道の駅さかい」、豊丘村「とよおかマルシェ」、飯島町「花の里いいじま」「田切の里」について、道の駅が暮らしや産業の中でどのような役割を果たせるのか、地域への効果と運営の持続性などを検討材料にするべく、役場関係課職員を対象に報告会を開催しました。調査の要点を整理しながら質疑応答と意見交換を行いました。道の駅により町民の利便性、農家の販路、雇用、交流、商業、観光がどう変わるのか、運営の持続性を考える必要があります。議会として、町民の声を受け止め、事業の必要性や効果、将来の負担を丁寧に確認していきたいと思います。



福祉教育常任委員会

辰野中学教職員との意見交換会 7月27日

事前に行ったアンケートから浮き彫りになった教員の多忙化・人手不足、校舎の老朽化やバリアフリー、事務・ICT環境の不備、通学環境などの現場課題について意見を交換しました。アンケートと意見交換を通じて、教育現場の課題を共有しました。



教育長、教育委員会との意見交換 8月17日

7月27日に開催した辰野中学校教職員との意見交換の内容を取りまとめ、その論点を共有・相談する目的で教育委員会との意見交換をしました。教員不足や施設老朽化、ICT環境、少子化への対応が議論され、独自支援や設備更新、ビジョン策定等を進める方針が示されました。



障がい福祉についての勉強会 9月29日

障がい福祉の勉強会および障害者就労支援センターの現地視察を行いました。

町保健福祉課から障害者手帳制度や増大する障がい福祉サービスの現状、各種支援体制について説明を受け、質疑応答を実施。その後、作業所(「ぬくもりの里」「つむぎ」「工房ぬくもり」)の視察を通じ、就労支援の最前線や当事者ニーズを直接確認しました。



令和8年度 辰野町議会視察研修報告 7月14日～17日

北海道夕張郡栗山町・上川郡美瑛町・加西郡芽室町を訪問し、議会改革・地域包括ケア・まちづくりについて視察研修を実施いたしました。いずれの自治体にも共通していたのは、行政と議会、そして住民が対話を重ねながら地域課題の解決に取り組む姿勢でした。今回得た知見を辰野町の実情に合わせて活かし、住民に開かれた議会運営と、持続可能なまちづくりの実現に向けて、今後の政策提言や議会活動に積極的に反映してまいります。

栗 山町議会では、議会基本条例制定から20年にわたり議会改革を進め、「議員の学校」「議会モニター制度」「議会サポーター制度」などに取り組んでいる。「議員の学校」では、前回受講者から4名が立候補し全員当選するなど、人材育成で成果を上げている。また、議会モニターの意見を運営に反映し、出前報告会で若者や女性の声も政策に繋げている。辰野町議会でも議員のなり手不足は課題であり、住民との対話と人材育成を重視し、改革を進めることが重要である。



栗山町役場会議室



美瑛町役場庁舎

美 瑛町では、町域を4つの生活圏域に分け、小規模多機能型居宅介護施設を整備し、住み慣れた地域で暮らし続けられる体制を構築している。複合施設は、地域拠点や多世代交流の場、保育所や直売所を併設し、介護予防や地域交流にも成果を上げている。辰野町でも、住民との対話を基礎に、多様な組織が連携する地域共生社会を築くことが求められている。

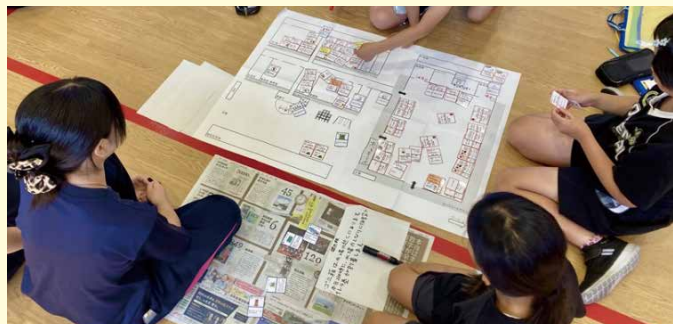
芽 室町では、議会活性化計画を毎年度策定し、評価・検証を重ねる議会改革を進めている。まちなか再生事業では、多様な世代の住民が「20年後の理想の芽室町」を描いたビジョンマップを作成。行政・住民・関係団体が連携した「ゆないとベース」を交流や挑戦の拠点として活用し、住民主体のまちづくりを進めている。辰野町でも、議会改革とともに、住民や若者が地域の将来像を描き、行政等と協働して実現する仕組みづくりが重要である。



芽室町役場議場

世代を超えて学ぶ地域の防災！ ～高校生・小学生・町議会の合同防災学習～

辰野町議会では、次世代を担う子ども・若者とともにまちづくりを考える取り組みの一環として、辰野高等学校「地域探究コース」の生徒の皆さんと連携し、地域防災をテーマとした探究活動を進めています。今回は辰野西小学校4年生の児童も合同で参加し、高校生と小学生が互いに学び合いながら、地域に根ざした防災意識を高める多世代連携学習を展開しました。



8月25日 辰野西小学校の体育館にて、辰野町赤十字奉仕団の皆さんを講師にお迎えし、「日本赤十字社 防災プログラム(ひなんじょたいけん)」を実施しました。避難生活での工夫や助け合いの大切さを実践的に学び、高校生が小学生を優しくリードしながら課題に挑戦。町議会議員や奉仕団も交えて活発な意見交流が行われ、世代を超えて地域の命と暮らしを守る意識を高め合いました。



9月15日 地域の守り手である辰野町消防団のご協力のもと、実技を中心とした防災学習を実施しました。訓練用消火器による初期消火体験や、小型可搬消防ポンプを用いた放水体験の指導を受けました。実際の資機材に触れながら指導を受けたほか、消防団活動の紹介や防災講話を通して、地域の防災力を次代へつなぐ学びを深めました。

議会だよりモニターアンケート報告

前号(No.102)についてモニターの皆さんからご意見をいただきました。

1 「見やすさ・分かりやすさ」

「全体的にすっきりしている」「項目ごとの要点が明確で、質問内容に関する参考図や写真が加えられ、読みやすかった」といった声がありました。

一方で、「定例会部分は文字サイズが小さく、圧縮されたデザインになっている」との指摘もありました。

こうした声を受け、情報を詰め込みすぎず、伝える内容を整理しながら、文字の大きさや余白にも配慮した誌面づくりを進めていきます。



2 「写真や色使いは良い。もっと図や表も」

デザインについては、「優しい色使いで見やすかった」「イメージ画像・配色が効果的に使われていた」といった評価をいただきました。

一方で、「一般質問は文字数が多く読みにくい」「グラフだけでなく表なども使えば、より読みやすくなる」といった提案もありました。

写真やイラスト、配色を活かしながら、図表も取り入れ、内容が一目で伝わるページづくりを意識していきます。



3 「用語解説は続けてほしい」

今回導入した用語解説については、「行政用語など積極的に紹介してほしい」「非常に良いアイデア」といった声が寄せられました。

一方で、「単に専門用語の解説を載せるよりも、文章の中に自然に導入した方が読みやすい」との意見もありました。

用語解説そのものは継続しつつ、本文とのつながりや掲載場所を工夫し、より分かりやすい広報誌を目指します。



4 「町民が議会を身近に感じられる内容を」

今後取り上げてほしい内容として、「町長の選挙公約の状況」「防災備蓄品を実際に確認する企画」など、具体的な提案も寄せられました。また、「議会と学生との交流など、若者とのコミュニケーションを積極的に紹介してほしい」との声もありました。

議会から情報を伝えるだけでなく、町民の皆さんの疑問や関心を出発点にした企画も検討し、議会をより身近に感じてもらえる紙面づくりにつなげていきます。



ご意見を今後に活かし、「読んでみたい」と思っていただけの議会だよりを今後も目指していきます。

ほたるの里中学生議会2026

※本番の様子は、次号No.104の特集でお伝えします。

～両小野中学校での意見交換会～ 8月28日

質問通告書の進捗確認と、生徒からの質問や、意見交換を実施しました。初回にお会いした時に比べると、生徒たちの表情が自信に満ち溢れ、変わってきた様子も実感しました。



～辰野中学校での意見交換会～ 9月18日

総合学習で取り組んでいる、辰野町の第6次総合計画後期基本計画の基本目標に沿ったテーマを研究した内容を見ながら意見交換を実施しました。課題へ真摯に向き合う眼差しが印象的でした。



令和8年 議員の学校 受講生14名卒業

第4回議員の学校 7月26日(日)

～自治体の財政と基本計画について～

- ・自治事務と法定受託事務（仕事の種類）
- ・町行政の体系と組織について
- ・辰野町第6次総合計画について
- ・予算の原則、令和8年度予算の概要
- ・辰野町の財政状況（基金積立額・町債等）



第5回議員の学校 8月23日(日)

～辰野町の課題とこれからの地方議員像～

- ・町の果すべき役割、町の課題を考える
- ・人口減少・少子高齢化への政策課題について
- ・多種多様な施設を町の魅力にどう生かすか
- ・歴史、伝統、文化、人材は、地域の資源
- ・これからの議員像について



第6回議員の学校・閉校式 9月27日(日)

～立候補に向けた準備と選挙の仕組みについて～

- ・立候補に必要な基本要件と準備の流れを理解する
- ・公職選挙法の基本ルールと改正点を押さえる選挙運動と政治活動の違い、告示前と告示後は
- ・告示日から投票日・開票までの全体像を確認する選挙運動期間の動き（街頭演説、選挙カーなど）
- ・ルールを守る選挙のため事前確認の大切さを共有



舟橋校長 「議員の学校」を終え、受講生の皆さんと学び合えたことをうれしく思います。次回の開校を望む声もいただき、大変ありがたく感じています。この学校を通して議会や町政への関心が深まり、願わくば立候補を考えていただける方が生まれることを期待しています。

休日にもかかわらず参加いただいた皆さんに、心から感謝申し上げます。

津谷教頭 「議員の学校」に入校してくださった皆さんに、改めて感謝申し上げます。町が抱える課題や、議会・議員の活動など様々なことを共に学んだ半年間は、これからのまちづくりに、いつか必ず活かされると実感しています。

今後、更に議会や行政への関心が高まることを期待しています。

令和8年12月定例会のご案内

開 会	12月 1日(火)
一般質問	12月 8日(火)・ 9日(水)
委員会審査	12月10日(木) ～14日(月)
閉 会	12月16日(水)

※確定した日程は議会ホームページ等でご確認ください。
※請願・陳情についてはオンライン提出も可能となりました。

辰野町議会 YouTube 一般質問は役場1階の町民ホールとYouTubeの生配信で傍聴できます。

たつのまち モニター募集!

第2期

議会だより

No.104～

あなたの町民目線のリアルな気づきが、
これからの「議会だより」に活かされます。
専門的な知識は一切必要ありません。
皆様のご応募をお待ちしております。

※詳細は、11月中旬に議会ホームページにて案内

編集 後記

9月議会では決算審査を行いました。町の一年を振り返り、限られた財源をどのように使っていくのか、改めて考える機会となりました。数字の背景にある町の取り組みや課題にも目を向けながら、今後のまちづくりにつなげていくことが大切だと感じています。これからも、議会での活動や審査の内容を、できるだけ分かりやすく議会だよりを通してお伝えしてまいります。

議会広報編集委員 本田光陽